

令和4年度 すいしんいんセッションQ&A 愛知県みよし市 近藤氏
活動報告への質問と回答

質問：

本人ミーティングの運営してる場所はどの様なことしていますか。

回答：

本市は、本人ミーティングはまだ実施できていません。ミーティング形式がよいのかも含めて検討中です。

質問：

天涯孤独のお一人様のサポートはどのようにしていますか。本人が包括に行かないと助けようがないようなのですが。本人を行かせるのが難しいと支援が始められませんが。

回答：

包括に行かないと助けようがないというのはどのような状況かわかりませんが、包括が家庭訪問して現状把握し、権利擁護の視点から例えば成年後見制度の活用が必要であれば市町村長申立もできますので、なんらかの支援は可能かと思います。

質問：

認知症施策と生活体制整備事業は連動している・させていってはどうかと包括内（委託包括です）で声が上がっています。協議体を活用しながらとは思いますが、地域へどうアプローチしていくか（話題で挙がっているような認知症に関する地域課題が挙がっていない場合）に難しさを感じています

回答：

生活支援体制整備事業における協議体は、包括等の専門職も協議をする構成員として参加し、話題提供することができます。ただ、気を付けないといけないとは、専門職から話題を振り続けるとそれを待って議論する場になってしまうリスクはありますし、専門職の話題の提供の仕方があまりにも専門性が高いと、「それは行政にやらせる」という協議体の本旨とずれた議論になってしまうので注意が必要だと思います。

質問：

本人ミーティングの準備として認知症の方への対応を勉強したボランティアを養成する必要があると思うが、やっている所のノウハウが知りたい。

回答：

本市ではボランティアの養成を先行させていません。

質問：

委託包括で推進員をしている者です。行政が消極的で現状、認知症カフェの開催（認知症の人はほぼいません）くらいで、他の活動はありません。委託包括の立場で、何から始められるのか、何ができるのか、助言をいただきたいです。

回答：

行政直営だから、委託だからという違いで、基本的にはできないことはないと思います。必ず組織、個人、運営方法等には「強み」があります。委託包括ということは民間であることも強いだと思います。包括に推進員を置いているということは、個別ケースを集積できる強みもあります。個別ケースが集積できればそこから課題も見つけられますし、優先順位もつけやすいと思います。もし「行政にやらせよう」や「行政が動かないと動けない」という発想があるのであれば、その考えから脱却し、自分たちなら何ができるか、包括としてどのように地域を巻き込むか等々を考えながらアイデア出しをしていく方がおもしろいと思います。

質問：

行政担当者と意見交換したくても、行政担当者が誰かすら分からない時はどうしたらよいですか？

回答：

認知症の担当者とはんやり聞くと業務を分けている場合がありますので、不明となるかもしれません。認知症初期集中支援チームのこととか推進員の担当等々具体的な取組みの担当者を聞いてみてはいかがでしょうか。

質問：

「認知症の人と家族の一体的支援プログラム」が現時点でどのくらい広まっているのか気になります。登壇されている皆様をご存知の情報がありましたら、ご回答お願い致します。

回答：

愛知県内ではまだまだ広まってはいません。近隣に聞いてみても準備しているというところがほとんどです。

質問：

生活支援コーディネーターさんとはどのように連携していますか？

回答：

包括内に推進員とSCを両方配置しています。これにより日ごろからコミュニケーションがとれる環境にしています。協議体に推進員が出たり、認知症施策にSCの立場の人が関わったりしています。

令和4年度 すいしんいんセッションQ&A 北海道旭川市 高橋氏
活動報告への質問と回答

質問：

本人ミーティングの運営してる場所はどの様なことしていますか。

回答：本人ミーディングは、まだ実施に至っていませんが、本人ミーティングの運営よりも先に、カミングアウトを実施した本人を支える仕組みが必要と思います。まだ、偏見などが多い状況ですので、ご本人が伝えたいと思える安心した環境を整えることからスタートしてみれば良いかと思います。

質問：

天涯孤独のお一人様のサポートはどのようにしていますか。本人が包括に行かないと助けようがないようなのですが。本人を行かせるのが難しいと支援が始められませんが。

回答：包括の機能として「実態調査」があるかと思います。まずは、天涯孤独の状態が繋がるのが大切ですね。包括のアウトリーチ機能を活用することが求められます。

質問：

認知症施策と生活体制整備事業は連動している・させていってはどうかと包括内（委託包括です）で声が上がっています。協議体を活用しながらとは思いますが、地域へどうアプローチしていくか（話題で挙がっているような認知症に関する地域課題が挙がっていない場合）に難しさを感じています

回答：体制整備事業がどの様な形態(実施主体など)になっているのかなど確認が必要です。認知症を患ったとしても安心して生活が営める基盤整備・・・事例を用いる事が話題にリアリティーを加えますので・・・
まずは「仮説設定」を実施し、その仮説に見合う事例を「包括」のみではなく「居宅」なども加えてリサーチしてみたいです。

質問：

本人ミーティングの準備として認知症の方への対応を勉強したボランティアを養成する必要があると思うが、やっている所のノウハウが知りたい。

回答：本人ミーティングで得られる効果はどの様なことを想定されているのでしょうか？ ボランティアに期待することは何でしょうか？ 本人ミーディングを実施するために・・・ではなく、認知症による生活の不便さについて理解をするボランティアの養成が肝の様に思います。

質問：

委託包括で推進員をしている者です。行政が消極的で現状、認知症カフェの開催（認知症の人はほぼいません）くらいで、他の活動はありません。委託包括の立場で、何から始められるのか、何ができるのか、助言をいただきたいです。

回答：認知症カフェに関しては「本人がいて・・・」との事業形態も多いと思いますが、認知症カフェはそれ以外にも各種機能を有するものと思います。認知症カフェの機能の一つが情報集積ですので、参加されている「市民(もしかしたら町民?村民?)」の方々からの意見を集積し「市民の声」として行政に届けることも必要なアプローチです。市民の声はエビデンスですから・・・認知症カフェの機能を定義づけすることをお勧めします。

質問：

行政担当者と意見交換したくても、行政担当者が誰かすら分からない時はどうしたらよいですか？

回答：事業展開をするためには担当者は必須です。まずは、ディスカッションを実施したい中味を整理したのちに、大きな声と思い、「担当者は誰ですか?」と聞いてみる。その行動もソーシャルアクションの一つです。

ただ、通常では「委託契約書」内に担当者が記載されていると思いますので、ご確認を

質問：

生活支援コーディネーターさんとはどのように連携していますか？

回答：戦いを制するためには相手を知る。ここが大切です。認知症地域支援推進員として実施する(したい)ことを明確にした上で、生活支援コーディネーターの事業を見ると「組すべきこと(同じようなこと)」があるのであれば、そこが連携ポイントになると思います。「連携する必要性がある」を明確にすることをお勧めします。

質問：

巻き込まれ方のコツがあれば教えてもらいたいです

回答：基本的には「感謝と恩返し」のスパイラルだと思います。ただ「巻き込まれるのを待つ」ではなく、「巻き込む」ことも大切だと思います。「巻き込まれ上手は、巻き込み上手」とは・・・私の尊敬するある人が言っていた言葉です。

令和4年度 すいしんいんセッションQ&A 和歌山県御坊市 谷口氏
活動報告への質問と回答

質問：

天涯孤独のお一人様のサポートはどのようにしていますか。本人が包括に行かないと助けようがないようなのですが。本人を行かせるのが難しいと支援が始められませんが。

回答：

御坊市では、そのような方の情報が入った際には包括職員がアウトリーチをかけ、必要な支援につなぐようにしています。本人が来るのを待っているだけでは支援できないと思います。

質問：

認知症施策と生活体制整備事業は連動している・させていってはどうかと包括内（委託包括です）で声が上がっています。協議体を活用しながらとは思いますが、地域へどうアプローチしていくか（話題で挙がっているような認知症に関する地域課題が挙がっていない場合）に難しさを感じています

回答：

認知症地域支援推進員と生活支援コーディネーター（SC）の役割は、重なる部分が多いと思いますので、連動することで業務のスリム化もできるかと思います。認知症に関する地域課題は、表面に見えなくても、SC活動で見えてくることもありますので、少しずつできることから一緒に動いていくといいと思います。

質問：

本人ミーティングの準備として認知症の方への対応を勉強したボランティアを養成する必要があると思うが、やっている所のノウハウが知りたい。

回答：

本人ミーティングは、認知症カフェ等と違い、本人同士が語り合う場であるので、対応力というところはそこまで求められないのではと思います。なるべく、支援者がミーティングに介入しないことが重要です。

質問：

委託包括で推進員をしている者です。行政が消極的で現状、認知症カフェの開催（認知症の人はほぼいません）くらいで、他の活動はありません。委託包括の立場で、何から始められるのか、何ができるのか、助言をいただきたいです。

回答：

お互いの役割の明確化や、そのための情報共有できる機会があればいいと思います。定期的に行政と委託の推進員が集まり推進員連絡会議というような形で開催しているところもあります。定期的に顔を合わせることで、距離も縮まり、何から始めていいのか、お互いの役割が明確になると思います。

質問：
行政担当者と意見交換したくても、行政担当者が誰かすら分からない時はどうしたらよいですか？

回答：
認知症施策と言っても多岐にわたるので、担当者が誰かを確認するというよりも「何について意見交換をしたいか」を伝えることで、その担当者が誰かということがわかるのではと思います。

質問：
御坊市における認知症コーディネーターとは、所属や資格は？市の職員としての採用ですか？何名でどのような役割ですか？

回答：
認知症コーディネーターは、行政職員、認知症地域支援推進員、社協、病院相談員、ケアマネジャー、認知症対応型デイ、グループホーム等の従事者です。報酬は出てません。市の認知症施策に関する協議や、研修企画、それぞれの地域での取り組み報告等を行っています。

質問：
生活支援コーディネーターさんとはどのように連携していますか？

回答：
推進員と兼任の方もいますが、生活支援コーディネーターの取り組みについて、認知症コーディネーター会議で報告をしていただき、推進員と共有し、必要な場合は協働する場合があります。農園活動等、地域づくりと認知症の人の活躍する場の提供として、すでに一緒に取り組んでいます。

質問：
巻き込まれ方のコツがあれば教えてもらいたいです

回答：
コツと言っていないかわかりませんが、地域で既に活動しているような場所に「仲間に入れてもらう」意識で入っていったり、行政に対しては、カフェやチームオレンジ等の取り組みに「何か力になれることはありませんか」と声をかけることで、距離はかなり縮まると思います。

令和4年度 すいしんいんセッションQ&A 熊本県山鹿市 山下氏
活動報告への質問と回答

質問：

本人ミーティングの運営してる場所はどの様なことしていますか。

回答：

ご本人ご家族と来ていただいて、同じ部屋でご本人、ご家族と分けて茶話会形式で行っていました。

質問：

天涯孤独のお一人様のサポートはどのようにしていますか。本人が包括に行かないと助けようがないようなのですが。本人を行かせるのが難しいと支援が始められませんが。

回答：

推進員として、包括と一緒に訪問するのはいかがでしょうか？

質問：

認知症施策と生活体制整備事業は連動している・させていってはどうかと包括内（委託包括です）で声が上がっています。協議体を活用しながらとは思いますが、地域へどうアプローチしていくか（話題で挙がっているような認知症に関する地域課題が挙がっていない場合）に難しさを感じています

回答：

連動させることは良いことだと思います。地域の中には、認知症の課題だけではありませんし、子どもから障がいと多種多様で絡み合っています。協働して行くためには、認知症に関する課題以外にも関わって行くことが大事かと思っています。

質問：

本人ミーティングの準備として認知症の方への対応を勉強したボランティアを養成する必要があると思うが、やっている所のノウハウが知りたい。

回答：

関わるスタッフが、日頃から認知症に関わる人だった為、特にボランティアの養成はしておりませんが、ミーティングをなぜするのか、何のためにするのか、何がゴールなのかは共有して実施していました。

質問：

委託包括で推進員をしている者です。行政が消極的で現状、認知症カフェの開催（認知症の人はほぼいません）くらいで、他の活動はありません。委託包括の立場で、何から始められるのか、何ができるのか、助言をいただきたいです。

回答：

包括の立場で、現在関わる当事者の方のニーズを実現することから始めてはどうでしょうか？例えば、介護保険サービスでデイに行かれています方でもデイに行くことがゴールではないと思います。デイで機能回復して旅行に行きたいとか、墓参りに行きたいとか、野球をしたいとか。そういうことを実現するために話し合ったり、必要な仲間を募ったり。そんな活動が推進員としても楽しいかと思います。

質問：

行政担当者と意見交換したくても、行政担当者が誰かすら分からない時はどうしたらよいですか？

回答：

行政担当者に会って具体的にどんな話をしたいですか？行政には必ず介護保険に関わる部署があります。まずはそこを訪ねれば繋いでくれると思います。

質問：

生活支援コーディネーターさんとはどのように連携していますか？

回答：

推進員を離れ現在はSCとして活動しています。地域で気になる方の情報共有。見守り合いマップの作成。イベント研修会の案内などを推進員へしています。

質問：

巻き込まれ方のコツがあれば教えてもらいたいです

回答：

巻き込まれるという事があまりないのでお答えできませんが、地域の方からのお話は断らないようにしています。あとは、常に上機嫌でいる事ですかね。不機嫌な人に声はかかりませんので。

令和4年度 すいしんいんセッションQ&A 大阪府大阪市 森岡氏
活動報告への質問と回答

質問：

天涯孤独のお一人様のサポートはどのようにしていますか。本人が包括に行かないと助けようがないようなのですが。本人を行かせるのが難しいと支援が始められませんが。

回答：

「天涯孤独のおひとり様のサポート」にかかる支援のうち、「本人が包括に行かないと助けようがない」というのは、介護予防事業の参加などを指しているのでしょうか。本人が直接、地域包括支援センターに行けない場合、地域包括支援センターが持つアウトリーチ機能で支援を開始することはできると思います。まずはその方に信頼していただけるように専門職が寄り添うことが大切であると思います。どの職種が関わり、どのような支援を展開するかは、個別のケア会議や地域ケア会議などを開いて、ファーストタッチの方法や継続支援のあり方を協議することが大切だと思われます。その結果、見守ることになれば、具体的に誰がどのような方法で見守り、緊急時に備えたネットワークをどうするかなど、話し合う必要があります。その人への援助のプロセスを「見える化」することが大切だと思います。プロセスを「見える化」すると、いろいろな課題や気づきが見えてきます。場合によっては、専門職への研修が必要であったり、制度や政策へのアプローチが求められることもあるかもしれません。「本人が包括に行かないと助けようがない」という発想を転換されるとよいと思います。

質問：

認知症施策と生活体制整備事業は連動している・させていってはどうかと包括内（委託包括です）で声が上がっています。協議体を活用しながらとは思いますが、地域へどうアプローチしていくか（話題で挙がっているような認知症に関する地域課題が挙がっていない場合）に難しさを感じています

回答：

相手が認識していない地域課題を理解してもらうのは難しいと思います。「話題で上がっているような認知症に関する地域課題が挙がっていない」のは、その地域で生活している認知症高齢者や若年認知症の方は、何も困りごとがなく、問題も課題もないということでしょうか。おそらく違うと思います。認知症を持つ方が感じている生活上のニーズが、協議体の方々に伝わっていないのではないかと思います。参考になればよいですが、過去に私が実践したことを書きます。認知症に関する様々な課題を認識してもらうために、行政がすでに公開しているデータを用いて「自分たちの住んでいる地域」と「自分たちの地域以外」との比較データを作りました。人口、高齢化率、認知症率、認知症を持つ方に対する社会資源、地域包括支援センターの相談件数（虐待件数、成年後見申し立て相談件数、認知症に関連するデータなど）を比較して概観した後に、当事者の声（認知症の本人、家族、支援している専門職）を紹介するといったプレゼンテーションをしました。プレゼンテーションは、研修会、連絡会などで実施させていただきましたが、こちらから「プレゼンする時間をください」と頼みました。正確な情報を伝え続けると、聞いている人の意識が変わっていくことを体験しました。アプローチ方法は色々あると思いますので、できることから始め、継続することが大切だと思います。

質問：

委託包括で推進員をしている者です。行政が消極的で現状、認知症カフェの開催（認知症の人はほぼいません）くらいで、他の活動はありません。委託包括の立場で、何から始められるのか、何ができるのか、助言をいただきたいです。

回答：

委託包括の立場ならではのご苦労があるのではないかと思います。私も委託されていた立場だったので、とても理解できます。「何から始められるのか、何ができるのか」過去に私自身も経験しました。振り返り、「これはやっていてよかった」と思うことは、所属組織が行政と契約した内容、仕様書を何度も確かめることでした。次に、行政が示している方向性を知るために地域福祉計画（他にもあったと思いますが）など、認知症施策と関係する計画に目を通すことをしました。そして、自分が見て把握している実際の現場と、仕様書と、関連する計画のつながる点が見えくると、「何をすべきか」がだんだんと明確になってきました。結果的にこの行動は、交渉相手（自分の組織、行政、地域、関係機関など）を説明するときの材料にもなりました。最後に一番大事にして欲しいことをお伝えします。それは、実際に自分がみている現場、つまり当事者たちの声なき声を大切にすることだと思います。

質問：

行政担当者と意見交換したくても、行政担当者が誰かすら分からない時はどうしたらよいですか？

回答：

所属組織は必ず行政と委託契約を結んでいます。まったく誰か検討が付かない場合は、契約時の窓口担当者に組織の長を通じて「市民の困りごとを聞いています。事業を展開するためにも、行政の方にお伝えし、相談したい」ことを伝えてもらってはどうかと思います。こういう場合、上司を通じた方が良くと思いますので、上司に自分が困っている理由を相談し、報告されるのが良いと思います。福祉の現場において、ましてや行政から委託された事業所が事業を実施するのに、行政の窓口がないということは、あり得ないことだと思います。

質問：

巻き込まれ方のコツがあれば教えてもらいたいです

回答：

巻き込んだり、巻き込まれたりするのは何のためでしょうか。少し打算的に思われるかもしれませんが、相手の目的が明確にわかれば、自分から巻き込まれて自分の仕事を進める人もいらっしゃると思いますし、率先して巻き込まれる人もいると思います。また、自分が相手を巻き込む場合、相手にとってのメリットを伝える必要があると思います。「巻き込み」「巻き込まれ」には、お互いがWin-Winの関係でいられることが、コツだと言えるのではないかと思います。普段から「私はこういうことがしたい」「私はこういうことに関わりたいから声かけて」など自分の意思を周囲の人に話しておくとういと思います。

令和4年度 すいしんいんセッションQ&A 鳥取県鳥取市 金谷氏
活動報告への質問と回答

質問：

本人ミーティングの運営してる場所はどの様なことしていますか。

回答：

2か月に1回開催で、コロナ前は1時間軽食をした後にミーティングを実施。ミーティングでは近況報告をした後に決められたテーマについて話し合っています。コロナで休止したこともあるけれど、継続して開催したいという本人の強い要望があり、会食を中止にして開催したり、対面での開催が出来なくなれば、本人と相談してオンラインでの開催にも挑戦しました。色々な場面で本人ミーティングの意義や重要性を話していると、最近では企業から話を聞かせてほしいと言われることも増えています。

質問：

天涯孤独のお一人様のサポートはどのようにしていますか。本人が包括に行かないと助けようがないようなのですが。本人を行かせるのが難しいと支援が始められませんが。

回答：

自宅訪問を行い、関係性を築きながらサポートするようにしています。必要であれば、訪問して介護保険申請代行手続きを行う事も出来ます。本人が必ず包括に行かないと始まらないわけではないので、相談していただけると良いと思います。サービス利用を行う上で、成年後見制度を利用が必要になってくる場合もあるので、成年後見制度利用支援事業を活用しています。

質問：

認知症施策と生活体制整備事業は連動している・させていってはどうかと包括内（委託包括です）で声が上がっています。協議体を活用しながらとは思いますが、地域へどうアプローチしていくか（話題で挙がっているような認知症に関する地域課題が挙がっていない場合）に難しさを感じています

回答：

連動しているので、協働していくことが良いと思います。認知症になる前からアプローチすることで、認知症になった時に早期発見、早期介入を行うことができるし、認知症になってからも継続できるような仕組みを関係者で構築していくことができると思います。「課題」はやりたいこと、やるべき事がある時に、初めて壁となって出てくる場合も多いと思います。課題を見つける事に執着するより、この地域でどう暮らしたいのか、やってみたいことは何か？それはどうやったら実現出来るか？そういうことが語れるような場になっているか？再度、関係者で話してみるのも良いのかなと思いました。

質問：

本人ミーティングの準備として認知症の方への対応を勉強したボランティアを養成する必要があると思うが、やっている所のノウハウがしりたい。

回答：

鳥取市の場合は本人ミーティングのためにボランティアを養成する研修は開催していません。パートナー研修を開催していくのはどうかという意見が出たことがあります、「パートナーとは、同じ目的を持って行動をともにする者」であるので、研修を行って養成するものではないと話し合い、開催しませんでした。ただ、本人ミーティングをより良いものにしていくためのパートナーミーティングは開催しました。そこでは「①なんの為に開催しているか②本人が参加しやすい環境を整備するために必要なことは何か③ミーティングで聞いた本人の声をどう生かしていくか等」を話しました。そして、2回月に1回の実行委員会で情報共有を行い、必要であれば、パートナー同士の話し合いを行ったりしています。

質問：

委託包括で推進員をしている者です。行政が消極的で現状、認知症カフェの開催（認知症の人はほぼいません）くらいで、他の活動はありません。委託包括の立場で、何から始められるのか、何ができるのか、助言をいただきたいです。

回答：

認知症地域支援推進員として活動する中で出会う、身近な認知症の人の声を聴いて集めてみるのはどうでしょうか？ 私たちも毎月それぞれの委託包括の推進員さんたちが聞いた認知症の本人の声を共有する時間を持っています。すぐに何かにつながるものばかりではないですが、すごく大切な時間だなと思っています。行政が作ったものは、行政職員が認知症の人に良いであろうと一生懸命考えて作ったものですが、本当に地域で暮らす認知症の人たちに必要とされているものかどうかはわかりません。なので、私もうまく行かない時は周囲の人に聞くようにしています。認知症カフェに参加されている人にあなたが認知症になってもこのカフェは参加したいと思うカフェかどうか。カフェに参加されない方にはなぜ参加しないのか等を聞いて、行政と一緒に検討してほしいと伝えてみてはどうでしょうか。委託包括で沢山の相談にのっておられるからこそ見える課題もあると思います。こうあったらいいなと、思い描く暮らしと一緒に語りあえる機会があると良いなと思います。

質問：

行政担当者と意見交換したくても、行政担当者が誰かすら分からない時はどうしたらよいですか？

回答：

まずはこんな話がしたいけれど、誰と話したら良いか等、具体的に聞いてみてはどうでしょう。行政担当者も待っておられると思います。

質問：

「認知症の人と家族の一体的支援プログラム」が現時点でどのくらい広まっているのか気になります。登壇されている皆様をご存知の情報がありましたら、ご回答お願い致します。

回答：

鳥取市では色々と模索しながら、取り組んでいます。他県の取り組みも参考にしながら、鳥取市に合うものを1つずつ実施している段階です。

質問：

生活支援コーディネーターさんとはどのように連携していますか？

回答：

「地域作り」という同じ目的を持つ仲間なので、日ごろから情報共有するようにしています。地域のサロンに参加されている方が、認知症になっても今までと同じように継続してサロンに通い続けることができるように、認知症になっても大丈夫と言える地域を作るためSCさんと一緒に啓発したり、協議体の話し合いに参加したりしています。高齢者の保険事業と介護予防の一体的実施に関する事業の取り組みもSCさんと一緒に積極的に関わっており、継続したサポートが行えるような仕組み作りを行っています。

質問：

巻き込まれ方のコツがあれば教えてもらいたいです

回答：

巻き込まれ方のコツかどうかは分かりませんが、私は出会う人に「私はこんな仕事をしています。こんなことにも興味、関心があります。こんな事をしたいと思っています。」等を声に伝えるようにしています。そうすると、思いがけないところで声をかけてもらえます。言い続けていると、いつか実現出来るとしています。